

無垢フロア施工上のご注意

基材が無垢材ですので複合フローリングと比較した場合、床下からの影響を受けやすいため、下記の注意事項をよくお読みいただき施工してください。

- 特に床下の温度が高くなる場所や、換気の不十分な場所には使用しないでください。地盤に湿気が多い地域、リフォームなどで床下と地面が接近していたり、床下換気口の小さい現場は要注意です。湿気が多い地域では床材に虫が発生しやすい原因となります。
- 施工は雨や風の吹き込むことがないように窓や囲いができてからにしてください。建築中の雨漏りには特に注意してください。
- パッケージを開けてすぐに貼りこみをせず、最低でも施工する1週間前にはフロアを取り出し、現場の環境になじませてください。
- 温度が高くなる1階の現場では、施工後に反りやねじれなどが発生する場合があります。床下の風通しを良くし、必ず厚さ12mm以上の耐水合板を下貼りしてください。耐水合板と根太の間に防湿シートを敷き込めばより効果的です。
- 天然木のため、仮並べをして色や柄を調整してください。
- 貼りこみは
 1. 板の並びはきつく締めず、「つく」程度とします。部分的に隙間ができてもしっかりたたき込まず、そのまま貼り上げてください。
 2. 接着剤と釘を併用してください。釘は長さ50mm程度のフロア用スクリーュー釘を、下貼りを通して根太上に打ち、固定してください。接着剤は1液型ウレタン樹脂系の木質床用(コニシのボンドKU928C等)をご使用ください。木工用ボンド(酢酸ビニルマルジョン系)はカップリングや床鳴りの原因になります。絶対に使用しないでください。
- 壁面への納めは密着させず、5~10mm程度の隙間を設けて巾木で隠してください。(図1)敷居、かまち等への納めは(図2)を参照してください。その他の場合でも、フロアの巾方向の両端は、壁などに密着させないで隙間(エキスパンション)を設けてください。
- 貼り終える最後の1枚は、1週間ほどなじませた後に貼ることをお勧めします。
- 表面保護のため、通気性のある養生シートを使用してください。粘着テープは塗装面をはがしてしまう場合がありますので、使用しないでください。

